

# ハンセン病問題を考える集い

～小笠原登博士の軌跡を通して、ハンセン病問題をともに考えよう～



写真提供 真宗大谷派解放推進本部

ハンセン病が恐ろしい伝染病と誤解され、その患者を生涯にわたり隔離する政策が進められていた当時の日本において、医師の小笠原登博士(1888年～1970年)はハンセン病患者の通院治療や入院治療を実践し続けました。

小笠原登博士の軌跡を講演や演劇を通して学び、ハンセン病問題に関するこれまでの歴史に目を向け、傷つけられた人たちの悲しみを受け止め、正しい知識と認識を持っていただければと思います。

**入場無料  
申込不要**

どなたでもご参加いただけます。  
是非、みなさまご参加ください。

2019年(平成31年) **1月26日(土)**

●開場 **12:30** ●開会 **13:00** (終了予定16:15)

四日市地域総合会館あさけプラザ ホール (四日市市下之宮町296-1)

**第1部 講演 13:05～**

**小笠原登のたたかいに学ぶ**

講師：藤野 豊(敬和学園大学教授)



**第2部 演劇 14:20～**

**空白のカルテ**

～ハンセン病強制隔離に抗した医師・小笠原 登～  
劇団名古屋



**主催** 三重県

**共催** 四日市市  
ハンセン病問題を共に考える会・みえ

**後援** 公益社団法人三重県人権教育研究協議会  
公益財団法人反差別・人権研究所みえ

**問い合わせ先**

三重県 医療保健部医務国保課

TEL 059-224-2337 FAX 059-224-2340



※近鉄富田駅から徒歩約15分

# ハンセン病問題を考える集い 2019年(平成31年)1月26日(土)

おがさわら のぼる

## 小笠原 登 博士

愛知県あま市（旧甚目寺町）出身。1888年に圓周寺という寺の三男として生まれました。京都帝国大学医学部卒業後、同大学医学部の皮膚科特別研究室助教授となり、1948年まで在職しました。「ハンセン病は感染症だが、その発症には体質や栄養状態などが作用するので、患者を隔離する必要はない」という信念から、当時行われていた患者の強制隔離・断種に反対しましたが学会から邪説と一蹴され、葬り去られる結果となりました。退官後は豊橋病院に移り、その後1957年に国立療養所奄美和光園に赴任し、1966年に退官。1970年に生まれ故郷の圓周寺において82歳で亡くなりました。

### ハンセン病とは

ハンセン病は「らい菌」に感染することで起こる病気です。

「らい菌」は感染力が弱く、非常にうつりにくい病気です。発病には個人の免疫力や衛生状態、栄養事情などが関係し、たとえ感染しても発症するとは限らず、今では発症自体がまれです。

また、万が一発症しても、急激に症状が進むことはありません。初期症状は、皮疹と知覚麻痺です。

治療薬が無い時代には顔や手足に変形を起こすことや、治っても重い後遺症を残すことがありました。そのため、主に外見が大きな理由となって偏見や差別の対象となってきました。

現在では有効な治療薬が開発され、早期に発見し、適切な治療を行えば、後遺症を残すことなく治るようになりました。

### 講師・劇団紹介

ふじの ゆたか

#### ■ 藤野 豊

1952年横浜市生まれ。敬和学園大学人文学部教授（専門は日本近現代史）でキリスト教主義教育に従事。ハンセン病問題についての研究において、「孤高のハンセン病医師—小笠原登「日記」を読む」「ハンセン病と戦後民主主義」などを執筆。

げきだんな こや

#### ■ 劇団名古屋

1957年に結成された市民劇団で、昨年に創立60周年を迎えた。名古屋市熱田区を拠点にして、平和や社会的弱者に寄り添ったテーマを中心とした演劇活動を続けている。2017年に劇団名古屋創立60周年記念公演第2弾「あ・り・が・と」が名古屋市民芸術祭特別賞（演劇部門）を受賞。

